

図2-9 多施設共同臨床研究支援機能

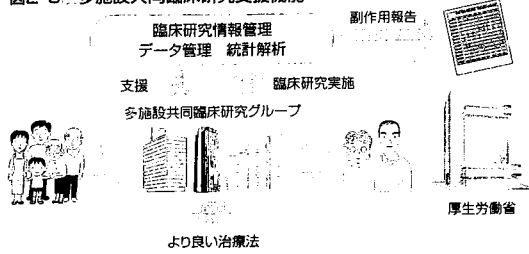


図2-10 がん診療支援機能

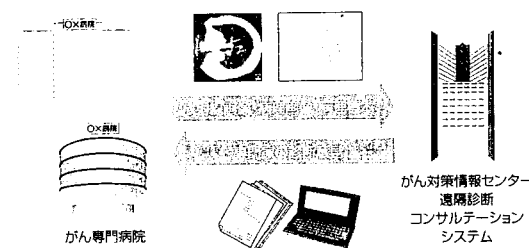


図2-9の支援機能は、臨床研究の実施を促進し、データの収集・管理・解析を支援し、結果の報告を容易にする。また、がん登録による正確な統計情報を整備し、誰もが適切に解釈できるように、説明を添えて国民にわかりやすいがんの統計情報を提供しています(図2-10)。さらに、がんに関する統計情報を総合的に分析することによって、がん対策の立案と評価に役立つ情報を整備しています。

3 多施設共同臨床研究支援機能
多施設共同臨床研究支援機能では、よりよい治療法を開発するための多施設共同臨床試験を支援しています。新たに開発された抗がん剤が、それ以外のがんにも効くかどうかや、それ以外の抗がん剤に対して、新しい抗がん剤を使った併用化学療法や集学的治療が、本当にそれまでの標準治療よりよい治療

具体的には、がん研究助成金の研究班及び厚生労働科学研究の研究班が実施する後期治療開発としての多施設共同臨床試験に対して、JCOG(Japan Clinical Oncology Group:日本臨床腫瘍研究グループ)中央機構として、研究デザインや研究計画書(プロトコル)作成の支援、患者登録/ランダム割付、データマネージメント、モニタリング、有害事象情報の共有、統計解析、施設訪問監査等の直接的支援を行っています。

手順を標準化し精度を向上させる活動を実施しています。また、がん登録によって収集したデータをもとに、がんの死亡・罹患・生存率について、正確な統計情報を整備し、誰もが適切に解釈できるように、説明を添えて国民にわかりやすいがんの統計情報を提供しています(図2-10)。さらに、がんに関する統計情報を総合的に分析することによって、がん対策の立案と評価に役立つ情報を整備しています。

3 多施設共同臨床研究支援機能
多施設共同臨床研究支援機能では、よりよい治療法を開発するための多施設共同臨床試験を支援しています。新たに開発された抗がん剤が、それ以外のがんにも効くかどうかや、それ以外の抗がん剤に対して、新しい抗がん剤を使った併用化学療法や集学的治療が、本当にそれまでの標準治療よりよい治療

であるかどうかについて、誓の承認後に行われる臨床試験(後期治療開発)を行うグループとして、研究者による「共同研究グループ」があります。この共同研究グループが多施設共同臨床試験を実施するためには、多くの施設の協力が不可欠でなく、臨床試験の質を保ちスムーズに実施するための中央機構が必要です。この多施設共同臨床試験を実施するうえで必要となる中央機構の一部を担っています(図2-9)。

4 がん診療支援機能
がん診療支援機能では、それぞれの患者さんに最適な診断や治療が実施されるよう、がん診療連携拠点病院の医療スタッフを支援します。

がんの治療効果をあげるためには、個々の患者さんによって異なる種類と広がりをもつがんという病気をまず正しく見きわめ(診断)、それぞれに効果が期待される治療法を正しく用いて治療を行うことが基本です。しかし、実際にはがんの診断・治療を正しく行うことはいつも簡単とは限りません。広くがんの診療に従事しているがん診療連携拠点病院の医師であって、さらに専門家の意見を聞いてみないと、より適切な診断や治療法に自信をもてない、判断の非常に難しいがんにもまれならず出会うことがあるものです。正しい治療選択を行うために、そうした専門家への相談が気軽に、素早くできる環境が望まれています。また、全国の施設がそれぞれ同じ診断法・治療法を行っているつもりでも、実際に行う施設によって、治療効果や安全性に影響しかねない様々な違いが起きていることがあります。施設



がん情報サービス向上に向けた地域懇話会

(5) がん情報サービス向上に向けた地域懇話会
インターネットや冊子による情報提供に加えて、がん対策情報センターのスタッフが各地域に向かい、地域の患者、ご家族などと直接お話しをします(図2-6)。

「がん患者とその家族」家族ががんになったとき、「がん情報講演会」がん情報のとき(2007)、「論より科学的根拠」信頼できるがん情報とは、「がんの子どもの社会で支えよう」、「公共空間のタバコ撲滅大作戦」などで、がん情報サービスでビデオ映像を視聴することもできます。

(6) 市民向け情報講演会
また、がん情報に関する情報提供を扱った「市民向けがん情報講演会」をテレビ会議システムを利用して、全国17か所のがん診療連携拠点病院に中継して開催しています。今までに取り上げた課題は、「がん患者とその家族」家族ががんになったとき、「がん情報講演会」がん情報のとき(2007)、「論より科学的根拠」信頼できるがん情報とは、「がんの子どもの社会で支えよう」、「公共空間のタバコ撲滅大作戦」などで、がん情報サービスでビデオ映像を視聴することもできます。

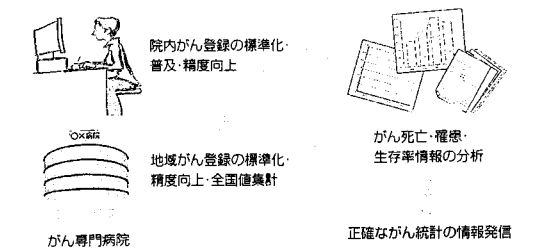
図2-7 院内がん登録



し、がん対策情報センターにて収集・集計を行い、正確ながん統計情報を全国に発信しています。

(1) 院内がん登録
院内がん登録では、がん診療連携病院で診療を受けたがん患者の症、特性、診療内容を把握し、生存率を算出して、施設のがん診療の実態を評価します(図2-7)。

図2-8 がん統計



(2) 地域がん登録
地域がん登録では、対象地域で発生したすべてのがんを把握し、罹患率・生存率を算出して、地域のがん対策の課題を見つけ、評価します。

(3) がん統計
罹患率や生存率は、がん登録の方法や精度によって、大きな影響を受けるため、がん対策に必要ながんの実態把握のためには、高い精度のがん登録を標準化された手順で行う必要があります。そこで、正確な罹患率と生存率を算出するために、がん登録の

設備較差。最近この施設間較差の実態が注目を集めている分野に、病理診断、放射線画像診断、放射線治療が挙げられます。

(1) 病理診断、放射線画像診断のコンサルテーション

がん診療連携拠点病院の診断医だけでは判断の難しい場合、相談に応じて画像伝送やバーチャルライドなど最新の技術を使役して、その領域の病理診断や画像診断に関する全国の専門家の意見を集約し、タイムリーに報告します(図2-10)。

(2) 教育的画像のリファレンスデータベースを整備・公開

全国から集まる診断困難だった病変やなかなか経験できない病変などを画像データベース化して公開し、がん診療連携拠点病院などの診断医の参考資料としてすぐに活用できるようにしています。

(3) 臨床試験に対する支援

多施設共同臨床試験の結果の信頼性を高めるため、試験に登録された患者さんの病理診断や放射線画像診断を事後確認するお手伝いをしています。

(4) 放射線治療の内容や、照射装置の精度評価支援

世界各国では行われているものの、がん総合戦略研究事業も進められ、平成18年度からは、こうした研究事業の運営について、厚生労働大臣から国立がんセンター総長に委任されています。

また、がん医療に関する政策課題に直結する研究、がんの標準的治療法の開発を推進する研究等についても第3次対がん総合戦略事業の中のがん臨床事業として位置づけられ、平成19年度からその研究事業の運営が国立がんセンター総長に委任されています。

6 がん研修支援機能

我が国のがん医療の均てん化を推進するため、各種研修の企画・調整をし、がん診療連携拠点病院などの医療従事者等に対して国立がんセンターでの実地研修等を管理・運営しています(図2-11)。

(1) 研修の推進

がん医療の均てん化を推進するために、がん診療連携拠点病院の医師、看護師、薬剤師などの医療従事者に対して、緩和ケア、化学療法、放射線

これまで日本では行われてこなかった第三者評価による放射線治療機器の出力測定支援プログラムを実施し、万一改善すべき点が見つかった場合には、改善作業のお手伝いをしています。また、近年より高度で複雑になった方で標準化が進んでいない放射線治療計画において、一連のプロセスが正しく行われていることを確認し、これらでの活動により、放射線治療における医療事故を未然に防ぐ効果が期待でき、患者さんが安心して治療を受けられる環境を整えます。また同時に、従事する医師・技師の技能の向上や、治療成績の向上し、さらには、臨床試験においても放射線治療の内容を確認することにより、臨床試験の質を保ち新たな標準治療の確立に貢献します。

5 がん研究企画支援機能

厚生労働本省との緊密な連携のもとに、がん対策を推進するための研究にかかる企画・立案の一翼を担っています(図2-11)。具体的には、研究の応募申請等の受付業務やそれらの進捗状況管理などを実施するとともに、さらに、研究費の重点的な配分をがん研究の専門家等の意見を踏まえて実施しています。

(1) がん研究助成金

がん研究助成金は、「がん対策に関する高度専門的な研修を実施しています。また、がんのあらゆる相談の第一線となるがん診療連携拠点病院の相談支援センターで相談業務に携わる者の資質の向上等のため、相談支援センターの相談員向けの研修を実施しています。さらに、がん登録の実務者のための標準的なテキストを作成し、院内がん登録実務者を対象とした研修会を実施しています。

7 情報システム管理機能

情報提供システム、診療支援システム、がん診療連携拠点病院を結ぶ多地点テレビ会議システムなどのシステムインフラの整備・運用を実施し、がん対策情報センター活動を支援しています。

8 がん対策情報センター運営協議会

がん対策情報センターの活動を評価する枠組みとして、専門家、患者さん、メディアなどの代表を含む外部有識者で構成される「運営協議会」が年に2-3回開催され、活動に対する評価・提言などをいただいています。

9 患者・市民パネル、専門家パネル

がん患者さんの視点に立った活動を

する企画及び行政を推進し、並びにがん医療の向上に資するため、必要とみとめられる研究に助成金を交付するもので、昭和38年度から行われています。その運営については、厚生労働大臣から国立がんセンター総長に委任されているため、がん対策情報センターでは学識経験者や行政関係者で構成される運営委員会の運営、研究課題及び研究者の選定や研究費の

配分、研究成果の評価などの業務を実施しています。
(2) 第3次対がん総合戦略研究事業
厚生労働省は、がんの罹患率と死亡率の激減を目指した「第3次対がん10年総合戦略」を策定し、本戦略に基づいた施策を平成16年度から開始しています。これに基づき、厚生労働科学研究費補助金による第3次対

図2-11 がん研究企画支援機能

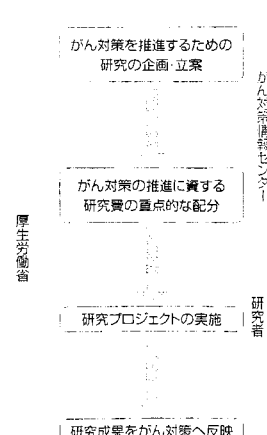
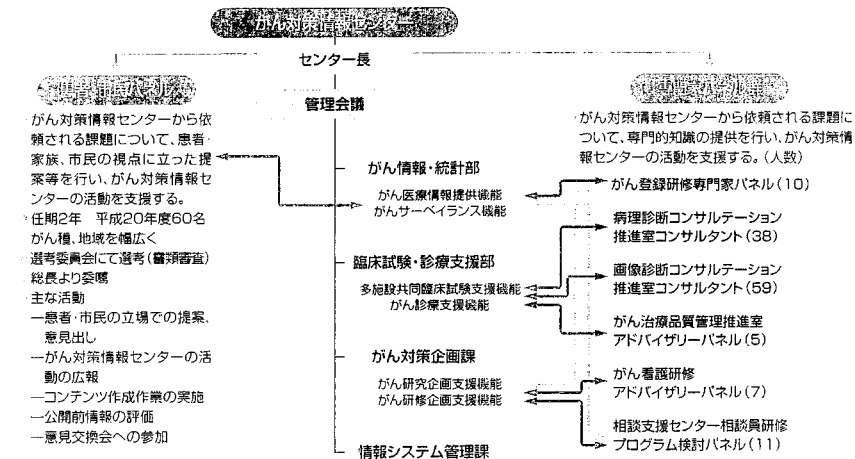


図2-12 がん研修支援機能



図2-13 患者・市民パネル、専門家パネルの設置



がんの早期発見について

がんになっても、後診で、早期に見つければ、がんにならぬことに越したことはありませんが、どんなに気をつけても、がんを完全に防ぐことはできません。ですから、次に心がけることは、がんになっても、早期に見つけて、治してしまうことです。早期のがんでは、症状はないことが普通ですから、早期にがんを発見するのは検診の役割です。子宮頸がんでは、20歳から2年に1回、子宮頸部の細胞を擦るだけのかんたん検査を受けてください。ほとんど痛みはありません。大腸がんは40歳以上で毎年1回便をとるだけです。乳がんも、40歳以上で2年に1回、マンモグラフィによる検診を受けるべきです。その他、肺がんと胃がんも、40歳以上では年に1回検診を受けてください。

早期がんであれば、ほぼ完治が可能。がんは不治の病ではありません。現在、全体で見れば、半分以上のがんは治ると言えます。がんがまだ1〜2センチ程度の時期、つまり、早期に見れば、治癒率はぐんと良くなります。たとえば、進行した胃がんでは、半数近くの方が命を落としますが、早期であれば、100%近く完治します。



出典「第1回がんに関する普及啓発懇談会」資料(中川恵一座長からの提出資料)から一部抜粋



会議風景

のメンバーには、がん医療や教育に関する専門家をはじめ、広告業界、芸能界、がん患者会など、様々な分野で活躍されている方々にお越し、そ

れぞれの立場から、がんの普及啓発に関する意見を伺うこととしています。平成20年10月24日に開催された第1回懇談会では、がんの普及啓発に関する話題の中でも特に、「がんのイメージについて」、「がんの予防早期発見について」、「がん情報について」、「がん教育について」、「企業連携について」等について、活発な意見交換が行われました。同12月26日に開催された第2回懇談会では、地方自治体、企業等におけるがんの普及啓発に関する取組事例や、がん以外の分野における普及啓発活動の取組事例などについて、懇談会メンバー及びオブザーバーによる事例発表や、発表内容についての意見交換が行われました。また、懇談会メンバーでもある山田邦子さん率いる、「がんに立ち向かう人たち」そして、その家族のみなさんを勇気づけたい

「がんの早期発見治療の大切さを伝えたい」との目的で結成された「スター混声合唱団」有志による合唱が披露されました。

今後は、この懇談会で報告、発表された先駆的な事例をもとに、がんの病態、検診の重要性、がん登録、緩和ケア等に対する正しい理解の普及啓発のための方策について、具体的な検討を行っていくこととしています。

表3-1 がんに関する普及啓発懇談会メンバー表

氏名	所属
天野慎介	特定非営利活動法人グループ・ネクス理事
衛藤 隆	東京大学大学院教育研究科健康教育学教授
兼坂紀治	(社)日本広告業協会専務理事
塩見知司	(財)日本対がん協会理事・事務局長
関谷亜矢子	フリーアナウンサー
永江美保子	アブラック マーケティング戦略企画部付帯サービス企画課長兼がん啓発担当
◎中川恵一	東京大学医学部附属病院准教授、緩和ケア診療部長
山田邦子	タレント
若尾文彦	国立がんセンターがん対策情報センター センター長補佐

注)五十音順、◎は座長

※関谷亜矢子さんのインタビューを36頁に掲載。また山田邦子さんのインタビューを次号に掲載予定です。

がん対策推進基本計画においては、「がん患者を含めた国民の視点に立つたがん対策の実施」が、基本方針の一つとして掲げられており、今後のがん対策を推進するにあたっては、がん及びがん医療に関する正しい理解の促進を図ることは、基本計画に掲げる各施策を推進する上で、必要不可欠です。

具体的には、がんの早期発見のためには、がん検診の受診率の向上が重要であり、がん対策推進基本計画に

おいても、がん検診の受診率を5年以内に50%以上とするを目標の一つに掲げていますが、我が国のがん検診受診率が欧米諸国に比べ低いことを踏まえると、この目標達成のためには、国民の皆さんに、がんの病態、治療法に正しく理解していただくことが重要



スター混声合唱団

がんに関する普及啓発懇談会について

健康局総務課がん対策推進室

進めるために、患者市民パネルというグループを構成し、がん情報提供の活動を手伝っていただいています。患者市民パネルは、全国から100名の患者、家族、患者支援者を募集し、平成20年60名で活動を開始しました。活動は、電子メールによるやり取りが主となりますが、がん情報サービス

冊子、患者必携などについて、企画に対する意見をいただいたり、原稿をレビューしていただいたりしています。また、がん対策情報センターの各機能の活動を進めるために、専門的知識を提供していただく、専門家パネルも組織されています(図2-13)。

国立がんセンターがん対策情報センターの主な取組をご紹介します。以上のようにがん対策情報センターは、我が国のがん対策を推進するた

様々な取組がされています。平成22年4月、国立がんセンターは独立行政法人化されることになりましたが、非収益部門であるがん対策情報センターの活動が独立行政法人化により縮小されること無し、関係の皆様方のご支援、ご理解を賜りたく考えています。

関谷 私はいま幼稚園児の母で、子どもが幼稚園に行っている間に検診に行くというのはあるかもしれませんが、子どもがもともと小さい間はどこかに預けないと、検診に行けません。一時預かりの施設は、そんなにないんです。保育サービスをつければ、母親の受診率は上がるのではないかと思ったりします。



大腸がんのシンポジウムの時も「自覚症状がないから、自分には関係がないから受けない」という人が多くて、実は自覚症状が出てからでは遅い、早期発見にはつながらないということを知らないですし、知ろうともしません。あるいは「がんだと分かると怖いから行かない」という方が多かったです。

実は私も、その仕事をするまで大腸がん検診を一切受けたことがありません。専門家の意見でいけば、命にかかわるのに、なぜ検診を受けないのかと考えると、なぜか「よしから」という方は、まだいらつてますよ。ついでにね。

関谷 私はいま幼稚園児の母で、子どもが幼稚園に行っている間に検診に行くというのはあるかもしれませんが、子どもがもともと小さい間はどこかに預けないと、検診に行けません。一時預かりの施設は、そんなにないんです。保育サービスをつければ、母親の受診率は上がるのではないかと思ったりします。

「がんに関する普及啓発懇談会」のメンバーとして参加していただいています。依頼があったときに、どう思われましたか。

関谷 他の委員の皆さんを見ると、専門家の方や、がん体験者の方が多かったので、「私でいいのですか?」何で私ですか?」と思いました。大腸がんのシンポジウムで全国を回った経験はありましたので、その経験が買われたのか

「がんに関する普及啓発懇談会」のメンバーとして参加していただいています。依頼があったときに、どう思われましたか。

「がんに関する普及啓発懇談会」のメンバーとして参加していただいています。依頼があったときに、どう思われましたか。

「がんに関する普及啓発懇談会」のメンバーとして参加していただいています。依頼があったときに、どう思われましたか。



がんについてもっと知ってほしい。私にもお手伝いができれば。

関谷 亜矢子 さん

フリーアナウンサー



Profile

昭和39年東京生まれ。63年に日本テレビにアナウンサーとして入社、「独占!! SPORTS情報」「ジパングあさ6」「サ・サ・サセンター」などスポーツ・情報番組を中心に担当。平成12年に退社後も、子育てのかたわらフリーアナウンサーとして、各種シンポジウムのコーディネーターなどで活躍している。昨年発足した厚生労働省「がんに関する普及啓発懇談会」メンバーを務める。

聞き手 後藤敬一郎・厚生労働省広報室長補佐 撮影 山本祐之

「保健の授業で詳しくやってもらえるという感じでいいですね。」

問谷 これは出産についてもそうだと思います。学ぶ場所が全くないとか、不思議なことにも産むまで教えてくれません。

性教育とはまた別に、出産の仕組みや年齢によってリスクを伴うことや出産後の子育てはこんなふうに変だという知識が、昔は大家族だったので自分のお姉さんとか近所の親戚の出産を見ていれば分かりましたが、今は分からなくなっています。

私ももうすぐ39歳というときに産んだのですが、仕事もやっていたので、だいたいのことは何とかなるだろうと思っていたのが、こんなに大変なことが世の中にあつたのかと(笑)、本当に思いました。学校でも教えてもらわないし、母はそんなに大変だつたかしら?と、はるか昔のことだつたりします(笑)。

それを知らないから、子どもを産みたい人はいっぱいいるのに、気づくと高齢になつていて、妊娠する率も低くなるリスクも高まるということをその年齢になつて初めて知つたりする、がんのことも含め一般的に知る機会がないと感じます。

「出産育児が大変なことはすぐに伝わり、もう産むのをやめようか」という話になつてしまふ。でもその後、例えば産前産後のそのまま止めておきたいという細かい時期があることはなかなか伝わりません。

「自分はそう思つても、会社の雰囲気やというのはあるのかもしれない。」

問谷 制度だけではなかなか意識が変わつていきません。誰かが率先して例えば厚生労働省の男性は率先して育児を取得するなど、制度と意識の両方で進んでいってもらわないといけないのではないのでしょうか。

「経験で言いますと、手をかけたからいい子になるのは確らないですね。逆に手をかけ過ぎてみたい話も聞いたりします。」



問谷 誰かが産むときに、脅かさない程度に。こういう大変な時期があるんだよ、でもその後、こういういいときがあるからね」と伝えられたら、ずいぶん楽だと思います。

仕事も含めての女の人の生き方、ワークライフバランスを考える機会をもう少し作つてほしいです。私もお手伝いができたらと思います。時々そういうシンポジウムの仕事もやらせてもらっています。

働きながら出産育児できるには制度と意識が変わらなければ

「お子さんが産まれて、こんな制度があればいいの」と思われたことはありませんか。

問谷 生後2か月くらいから月に1度、保健所主催で母親の集いがありました。そこで同じくらいの月齢の赤ちゃんを連れてママたちと話せる。似たようなタイプのの子のママと話せることでだけ助かったか、その人たちとは今でもいいお友達です。

親子で行ける児童館だけではなくて、江東区では子ども家庭支援センター「みずべ」という施設におもちゃがあつたり本があつたり、疲れた母親のために2時間くらい見あけますよというサレバもあつたり。

江東区は公園も多くて、商業施設でも最近では赤ちゃん相談デーがあつたり、遊ばせる場所もあつたり。

父親が休みを取つて母親と交代ができる状況があれば、お母さんも自分の仕事を変えずに子育てができます。保育園でうまくいっている人は、意外に専業主婦より子どもが多いというデータもあるんです。家に帰つてきて子どもと向き合う時間が少ない分、子育てに対して「重荷」がかかるという気持ちが減るみたいで、かえつて第2子、第3子への気持ちが強いです。

「何か健康管理に気を付けている」となるとあります。

問谷 私はすごく丈夫な女ですよ(笑)。



その一方で保育所の待機児童が多いのは問題で、子どもが少ないのもそこにつながると思います。男の人は子どもが何人いようと仕事を全く変えないで済みます。女性もだいぶよくなつたとは言え、仕事を中断するとうち思いがあって、二の足を踏んでいるうちにどんどん結婚も出産も遅くなるという状態があると思います。産んでもす

母が小さいころに病気をさせないようになかなか気を使つてくれました。親に感謝しなければと思つています。

声を使う職業なので、うがい・手洗いは風邪の季節でなくてもやっています。食生活では、子どもが産まれたのも大きいです。野菜に聞いているかなり神経質に必ず青いものとかカロチン系のオレンジと黄色のものを買るようにしています。運動は、私はかなり歩くほうなので子どももすいぶん歩かせてますが、それが基礎的な体力につながるのかなと思います。子どもの幼稚園も2時間くらい歩いていく遠足があるところ、体を動かすことが基本だと思います。

「お子さんはかわいい盛りですよ。」

「フルタイム働く母親にとっては、会社も男性が育児を取得することが当たり前にならないといけない。男性も育児も取れるし会社によっては産休も取れるわけですが、建前上はそうでも取れる状況ではなかつたりします。」

最近では子どもにつられハレエを習い始めました。バレエなんぞやしたことなかつたんです。体がまだかたいですが(笑)。

「お子さんはかわいい盛りですよ。」

問谷 5歳、もうすぐ6歳なんです。4月から小学生になります。

「ひとりの節目です。」

問谷 小学生の親になるんだなという。学校でこれからのいろいろなことを教わるという段階になつて、私もまた、小学校とか中学校のいろいろなことが分かってくるのかなと思います。自分のごと問題になつていることもまた違うでしょうし。これからの女性の生き方をいろいろな選択肢の中から選べる子になつてくれるかしらと、いろいろ考えます。

私が小さい頃、父は女の子だから、とは言わなかったんです。一将来、何の仕事をするんだかというよう女性話をいつもしてました。それで女性も当然、仕事を持つつと働いて生きていくんだと思つていたので、娘にもそういう感覚が小さいころからあるといいなと思つてます。

だ」とか言っていて、ちゃんと見ていますね(笑)。
親の一言は大きいと、今になって思

います。
どうしても核家族で身近に高齢者がい

ませんが、お年寄りの話を聞く機会が本

当はもっと欲しいんです。うちの子は

達成のころから大リーグに行くまでず

っと取りま

せてもら

つたり、

長崎さん

が巨人の

監督、相

撲は若貴

の時代で

、サッカ

ーがヒー



「三冠王

取りたい

ですとか

最優秀防

御率とか

答えるの

ですが、

そうじゃ

ないん